

令和2年度 上江小中学校小学部「学校評価」(集計結果)

評価規準: A(4)よくあてはまる B(3)ややあてはまる C(2)あまりあてはまらない D(1)あてはまらない N わからない

目標	NO.	評価項目	教師平均	児童平均	保護者平均	全体平均
			3.3	3.5	3.2	3.3
学力の向上	1	先生達は授業でわかりやすい授業づくりに努めている。	3.2	3.7	3.2	3.4
	2	児童が、先生の話や発表する児童の話をしっかり聞くように指導している。	3.6	3.5	3.2	3.4
	3	家庭学習の課題を児童に与え、取り組ませるようにしている。	4.0	3.8	3.6	3.8
	4	家庭で課題に取り組んできたか確認し、事後指導をしている。	3.9	3.9	3.5	3.8
	5	児童が、自分の将来の夢や希望をもつような、キャリア教育の充実に努めている。	3.0	3.3	3.1	3.1
	6	英語の学習を通して児童のコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を高めるような指導をしている。	2.7	3.2	2.9	2.9
豊かな心の育成	7	児童が、元気なあいさつができるように指導している。	3.2	3.6	3.2	3.3
	8	学校内における言語環境の整備を心がけている。	2.9	3.3	3.0	3.1
	9	共通の基準で生活指導に取り組んでいる。(基本的生活習慣の定着)	3.4	3.5	3.4	3.4
	10	読書活動の充実に図るように指導を行っている。	3.4	3.1	2.6	3.0
	11	児童が、日頃の生活の中で、自ら進んで安全な行動が取れるように指導している。	3.4	3.6	3.2	3.4
体力の向上	12	体力向上プランを基本に、児童の体力が向上するように指導している。	3.3	3.7	3.5	3.5
	13	児童が、正しい姿勢(立腰)で授業を受けるよう指導している。	3.5	2.9	3.2	3.2
	14	児童の食への関心や食事マナーが向上するように、「弁当の日」の取組や給食指導の充実に図っている。	2.9	3.7	3.0	3.2
地域に貢献する人材の育成	15	地域のことに関心を高めたり、地域のよさに気付いたりするように、「えびの学」の充実に図っている。	3.3	3.6	3.2	3.4
	16	児童について、家庭への連絡を積極的にきめ細かく行っている。	3.4	3.5	3.2	3.4
	17	学校は、情報発信を適切に行い、地域や家庭と連携して教育活動を行っている。	3.4		3.2	3.3
特別支援教育	18	研修等を通して障がいの特性を理解し、個に応じた指導に当たっている。	3.5			
	19	将来、社会人として自立できるように、必要な支援を行っている。	3.0			

前年度比+0.3以上

前年度比 -0.3以下

- 【全体的に低い評価】
- キャリア教育の充実
 - 英語教育の充実
 - 学校内における言語環境の整備
 - 読書活動の充実

令和2年度 えびの市立上江小中学校 小学部 「学校運営協議会評価書」			
学校教育目標 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育 めざす児童生徒像 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子			
項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組	成果と課題（改善策等）
学力の向上	(1) 個に応じた指導を充実し、指導方法の工夫や時間の確保を行うとともに、系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図る。 (2) 研修を通して職員の授業改善を図る。 (3) 小中一貫の特色を生かした望ましい学習習慣や家庭学習の定着を図る。	○ 4+4のチェックポイントを意識した授業を行うとともに学習が苦手な児童の支援にも力を入れ、習熟の時間を確保しながら学力の定着を図る。 ○ 全職員が授業公開を行い、他の教員からのアドバイスを受けながら授業改善に努めていく。 ○ 初期研修については、メンター方式を導入し、全職員で関わっていく。 ○ 小中で系統性・継続性のある教育課程の実施、充実を図る。また、小中教員による乗入れ授業を実施する。 ・ 中学部の理科担当が小学5・6年生へ理科の指導 ・ 中学部の音楽担当が小学3～6年生への音楽の指導 ○ ALTを交えた英語活動・外国語活動・外国語科での学習を通して、コミュニケーション能力の素地をつくり、豊かな人間性を身に付けた児童の育成を目指す。また、中学部における外国語学習への抵抗を減らす。	○ 通常学級の支援の必要な児童についてはTT指導や個別指導などを活用し学習効果を上げることができた。 ○ 授業公開を通して、発問や、学習活動の進め方などについて意見交換を行い、授業改善につなげることができた。 ○ 初期研修では2回の研究授業を通して協議を行った。経験豊富な教員にとっても学びのある研修となった。 ○ 乗り入れ授業を通して、小中の教員間で協議を行うことができ、児童への理解を深めることができた。 ○ ALTとの対話の機会を増やすことで児童のコミュニケーション能力の育成を図ることができた。
豊かな心の育成	(1) 読書活動の推進のための取組を充実する。 (2) 元気なあいさつを基本に、主体性のある児童会の活動を促し、望ましい人間関係の醸成を図る。(ピア・サポート推進校としての積極的な取組) (3) 小中一貫の特色を生かした積極的な生徒指導に努める。	○ 読書月間、お話玉手箱等、子どもたちが興味・関心をもてる取組を積極的に行い、読書に親しむ環境を整える。 ○ 児童会・生徒会が連携し、「地域貢献活動」について話し合いを行い、地域の施設の清掃など、児童が主体的に取り組む活動を計画する。 ○ 子どもたちの健やかな成長のために、関係機関と連携しながら小中学校の職員の情報交換を密にし、よりよい指導を行っていく。 ○ 「ピア・サポート活動」に関する研修を行い、学級で実践をしていくことを通して、児童同士が相互に思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育んでいくようにする。	○ 外部講師による読み聞かせの活動はできなかったが、職員による読み聞かせは実施することができた。 ● 感染予防対策の観点から「地域貢献活動」は実施できなかった。感染が収束したら実施を検討していきたい。 ○ 通常学級の支援の必要な児童について、エリアコーディネーターや支援学校の専門教員によるアドバイスをすることで、児童への支援に生かすことができた。 ○ 2回の研修を実施することができ、学級での実践に生かすことができた。
体力の向上	(1) 小中一貫の特色を生かした体力向上プランの実施及び食育の推進を図る。 (2) 立腰指導の徹底や運動の推奨をとおして体力の向上を図る。	○ 運動する子としない子の二極化が見られたため、体力向上プランをもとに体育学習の更なる充実を図り、運動の楽しさを味わわせるようにする。また、合同運動会、合同ロードレース大会を実施することで、競技に向かう姿勢、練習、準備、片付けなどの取組等について小学生に学ぶ機会を設定する。 ○ 学級での指導を通して、正しい姿勢を意識させるとともに、年間を通して食育指導を行うことで成長期における栄養の大切さについて理解させる。	○ 体力向上プランに合わせて、準備運動や、サーキットトレーニングを授業の中に取り入れることで、児童の運動への意識を高めることができた。また、委員会活動の児童を中心とした全校遊びを企画し、5回実施し、運動の楽しさを実感させることができた。 ● 姿勢については授業のはじめや終わりに姿勢を意識させることはできたが、個人差があり、今後、常時指導など継続的な取組が必要である。
地域に貢献する人材の育成	(1) 「えびの学」を中心に、体験活動を積極的に取り入れることで、地域に対する愛着や理解の深化を図るとともに、系統的なキャリア教育の推進を図る。 (2) 積極的な地域・関係機関との連携や外部人材の活用により、地域に開かれた教育課程の実現を図る。	○ えびの市の自然、祭り、伝統芸能、歴史についてそれぞれの学年の実態に応じて地域と連携を図りながら計画的な体験活動を実施し、えびの市のよさや素晴らしさに気付かせる取組を行う。 ○ 地域学校協働活動や、関係機関の外部講師を活用し、学習支援のサポートを依頼することで、学習をより効果的・効率的に行う。 ○ 学級通信、学校便りの定期的な発行、ホームページの随時更新など、学校での様子を積極的に公開する。緊急を要する場合は、「しらはとメール」で職員・保護者に情報発信する。 ○ 地域にある公共施設等へ実際に見学に行き、その施設が地域社会へ果たす役割や思い、願い等について気付かせる。	● 感染症対策のため、運動会での伝統芸能、輪太鼓踊りは実施できなかった。また、同様に田植え、稲刈りなども本年度は中止した。収束後に実施できるよう準備を整えておく。 ○ 地域学校協働活動に依頼し、4年「用水路見学」6年「地域歴史探訪」「地層見学」で外部講師を活用した。講師の説明も丁寧で分かりやすかった。 ○ ホームページの更新を随時行うことができ、保護者からも好評であった。 ○ 宮日新聞への掲載作品は総数20点以上となり、図画や書写、作文などを通して情報発信することができた。